

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		10/17-10/24	10/24-10/31
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.077
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	欠測
		セシウム137	0.037
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.026
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.110
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.041
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.027
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.054
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.030

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		10/17-10/24	10/24-10/31
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.038
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.016

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。
10月17日から24日まで金房小学校では、電源にトラブルがあり欠測としております。

渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長) による解説

第96回目 大気浮遊じん放射能測定結果の解説
平成30年10月17日～10月31日間の大気浮遊じん中の放射能濃度は、セシウム137が平均0.037mBq/m³と極めて低い値でした。またセシウム134は観測されませんでした。事故後8年近く経ても事故由来のセシウム137が大気浮遊じんに含まれておりますが、その量は自然大気に存在するラドンなどに比べても少なく健康影響を心配することはありません。(注1)
最近、事故当初に観測されていた放射性ヨウ素や放射性セシウム134が観測されなくなっているのに、セシウム137はいつまでも観測されることに気がついた方がおられると思いますが、それぞれ半減期が異なり、ヨウ素131が8日、セシウム134が2年であるのに比べてセシウム137が30年と比較的長いのが理由です。(注2)
注1 日本の住居のラドン濃度:3.1 Bq/m³～208 Bq/m³(平均値15.5 Bq/m³)(www.kankyo-hoshano.go.jp/qa/lib/k_qa_6.pdf)
注2 半減期:放射性元素が崩壊して、その原子の個数が半分に減少するまでの時間。放射線の強さが半分に減るまでの時間。